

凧の世界史 19 中国の凧【1】 凧の起源

凧の起源は紀元前の中国と推定されていますが、私の資料探しも日本語か英語に限定されるために、今まで中国の凧については触れることができませんでした。「凧の世界史」と名付けられた連載を終了する前に、凧が発明されたとみられている中国の凧について日本語と英語で書かれた資料を調べて報告しておきます。今回は、凧の起源にまつわる情報に限定して報告することにします。

●凧の起源

参考資料1には、凧の起源について、次のように書かれています。

『中国で最も早い時期の凧は紙ではなく木で作られていました。伝説では最初の凧は魯の人で、中国の大工職の祖である魯班（紀元前507～紀元前444）によって、春秋時代末に作られたといわれます。墨家の代表的な哲学者・墨翟（紀元前478～紀元前392）が作ったという説もあります。墨翟は「三年の月日をかけ、木で凧を作り空に揚げた」と歴史書「韓非子」に書かれています。これが世界最古の凧だとすると、今から二千年以上も昔のこととなります。』 この中で、凧が木で作られたことが書かれています。紙は紀元前2世紀頃、中国で発明されていますが、西暦106年頃に蔡倫（さいりん）によって行なわれた製紙法の改良で実用的な紙が作られるようになるまで、紙は凧に使われず、木製の凧での飛揚が凧の起源になったようです。

参照資料2では、『春秋時代から戦国時代（紀元前770年～紀元前221年）の間に、ムーユアン(Muyuan)と呼ばれる大きな木製の凧が軍事目的に山東省で発明されたようです。』と凧の起源の時期を幅広く考えています。

広井力訳の「凧の世界史」（参考資料3）には、次のようなことが書かれています。紀元前4世紀の中国の有名な技師、公輸盤（Kungshu Phan）の発明による木製の凧は、3日間落ちることなく飛んでいたと古い文献にあるが、これは凧であったと見なされている。また2世紀のある書物は、翼の仕掛けをつけた張衡(Chang Heng)の木製の鳥についてふれている(括弧内は、原著に書かれている人名です)。ここでは、木製の凧を発明した技師の名前が公輸盤（Kungshu Phan）となっており、参考資料1に書かれている魯班とは異なっています。

深山五郎著の「凧の本」（参考資料4）には、次のように書かれています。

『紀元前三世紀の記録「韓輪子」によれば、哲人墨子の弟子の公輸子は、竹木を削ってカササギ形の凧を作って飛ばしたとあり、材料も木・竹を使ったことがわかる。凧の原産地と思われる中国では、早くからそれを軍用にすることが考えられていた。紀元前五世紀頃、宮廷付きの武官魯班は巨大な凧を作り、それに乗って空中より敵陣を視察した。また、「事物起源」（前二世紀）には漢代に高祖劉邦の臣韓信が未央宮付近の敵との距離をはかるために凧を揚げたといわれる。』

AKA(American Kitefliers Association)の凧の歴史に関するインターネットのページ(参考資料5)も見てみましたが、あまり凧の歴史について書かれていませんで、大略、次のような内容です。

『凧の正確な起源は不明だが、二～三千年前に中国とマレー諸島で揚げられたことが知られている。凧揚げに関する最初の書面による記述は、韓信が周囲を壁で囲まれた町の上を凧で揚げて、軍隊が壁の下に到達するためにトンネルを掘らなければならない距離を計算し、敵軍を驚かせ、韓信軍は勝利した。』

「中国の凧」（参考資料6）には、凧の起源について、次のように書かれています。

『凧の起源は不明とされていますが、史料によりますと、二千余年前の春秋時代（B.C.722～B.C.481）魯国の始祖・魯国の公輸般(大工の始祖・魯班)が、空高く旋回する「はしたか」をまねて木製の鳶を作り、上空から敵情を偵察したことに始まるといわれています。また、墨子が三年という月日を費やして木製の鳶を作り飛行させたという説もあります。その他では、楚と漢とが相争っていた頃（B.C.206～B.C.202）韓信が木製鳶を放ち、その糸の長さをもとに未央宮までの距離を測ってトンネルを掘り、ついには未央宮までの距離を測ってトンネルを掘り、ついには未央宮へ攻め入ったとの話があります。さらに韓信が垓下に項羽の楚軍を取り囲んだ折（B.C.202）楚軍の戦意を打ち砕くために夜昼をいとわずに木製鳶を作り、張良を乗せ、楚軍の上空に放って楚歌を高らかに唱わせたともいわれます。これによって楚軍は故郷への思いを触発され、志気はちりぢりとなり、ついには項羽の敗北を早めたとのことです。』

Clive Hart の *Kites: An Historical Survey* (参考資料7) には、凧の起源について、次のように書かれています。

『凧と他の飛行機械の境界が不明確であるため、何が中国の凧に関する最も早い参考文献であるかを決定するのは簡単ではありません。木製の凧の発明に関するよく知られた話があります (内容が少し変わった多くの話が記録されています)。

製作者は、孔子の同時代人である **Mo Ti** または **Kungshu Phan** のいずれかです。典型的な話がニーダム (注1) によって英語に翻訳されています。その話は次のような内容です。

「**Mo Tzu** は木製の凧作りに、完成まで3年かかりました。確かに飛ぶことができましたが、1日の揚げたら壊れてしまいました。」

別の話では、その木製の凧は3日間落ちることなく飛揚し続けたということです。もう一つの別の話として、**Kungshu Phan** は、包囲状態にある市の上を飛揚する木製のマン・リフティング・カイトを作ったということです。

中国と西洋の資料の両方で、もちろんこれらの話の正確性に疑問が表明されています。**Mo Ti** の鳩は、私たちが現在、凧として考えているようなものであったかどうかははっきりしていません。航空に関して優れた研究をしていたラウファー (*2) は、**Mo Ti** の鳩は凧ではないと考えていたようです。しかし、ニーダムは、凧だったと考えていました。この件は多分、疑問のまま残るでしょう。中国で明確に凧に関する最も早い記述はおおよそ、紀元前200年頃で、これが凧の起源として、おそらく最も広く認められていることです。』

注1. ジョセフ・ニーダム (1900~1995年) は、中国の科学技術の歴史に関する科学的研究と執筆で知られる英国の生化学者、歴史学者、および科学者です。

注2. **Berthold Laufer** (1874年10月11日-1934年9月13日) は、東アジア言語の専門知識を持つ人類学者および歴史学者で、アメリカ自然史博物館は、彼を「その世代で最も著名な中国研究者の一人」と呼んでいます。

●凧の起源の考察

以上、凧の起源に関して触れている参考資料にはどのように書かれているかを概観しました。名前が出た人達がどのようなことで取り上げられているかを整理しておきます。

参考資料	名前	内容
1	魯班	木製の凧を魯班が春秋時代末に作った
	墨翟	木製の凧を墨翟が三年の月日をかけて作り空に揚げた
2	なし	木製の凧が軍事目的で山東省で作られた。
3	公輸盤 (Kungshu Phan)	木製の凧を公輸盤が作り、3日間落ちることなく飛んだ。
	張衡 (Chang Heng)	翼付きの木製の鳥を張衡が作った。
4	公輸子	竹木を使ったカササギ形の凧を公輸子が作った
	魯班	巨大なマン・リフティング・カイトで空中から敵陣を視察した
5	韓信	距離の測定に凧を利用した記述が書面に残る凧の最初の記述
6	公輸般(魯班)	木製の鳶で上空から敵情を偵察(マン・リフティング・カイト)
	墨子	木製の鳶を3年間の月日を掛けて作って揚げた
	韓信	木製の鳶で敵軍までの距離を測り、トンネルを掘って攻めた
	韓信	木製の鳶に人を乗せて敵軍の上空で敵軍の郷里の歌で戦意を喪失させた
7	Mo Ti, Mo Tzu, Kungshu Phan	木製の凧の発明は Mo Ti か Kungshu Phan のいずれか
		Mo Tzu は木製の凧の製作に3年掛かり、1日揚げて壊した。
		Mo Tzu は木製の凧は落ちることなく3日間飛揚し続けたともいわれる。
		Kungshu Phan は木製の凧で包囲状態の敵軍の上から偵察した。

表1. 凧の起原に関連して参考資料に出てくる人名と関連する事項

表1には、漢字での名前とともに、英語での表記も入っており、それらの間での対応を調べました。参考資料8～10を調べると、魯班は、公輸盤、公輸子、公輸般とも書かれ、英語でも Kungshu Phan, Lu Ban, Gongshu Phan というように書かれます。同様に、墨翟(ぼくてき)は、漢字で墨子、英文では、Mo Di, Moti, MoTzu と書かれることがわかります。

ちなみに、魯班については、木製の凧で3日間連続して揚げた話も記述されていて、大工の始祖として知られていますが、墨翟については墨家の始祖であり、尊称で墨子とも呼ばれ、墨家の主張を集めた書も『墨子』と呼ばれることが書かれています。凧に関連した記述は見つかりませんでした。公輸子と魯班を別人にしている資料(参考資料4)もありますが、若干の混乱は紙による記述もない昔の事でやむを得ない事でしょう。

●マン・リフティング・カイト

参考資料4によれば、紀元前三世紀に公輸子が竹木製の鳥凧を飛ばしたことになっていますが、驚くことにはそれ以前の紀元前五世紀に魯班が巨大なマン・リフティング・カイトに乗ったことが書いており、木製の鳥凧が揚げられる以前にマン・リフティング・カイトが出現したという奇妙なことになってしまいます。また、参考資料7にも Kungshu Phan (魯班) が木製の凧に乗って敵軍の上から偵察したことになっていますが、凧の発明はしていても、マン・リフティング・カイトの実現まで進められたことは虚構ではないでしょうか。

●西洋での凧の起源:

凧は中国ではじめて揚げられたという説が有力ですが、ギリシャでそれ以前に揚げられたとする説を「世界の凧」(参考資料3)には、次のように記述されています。

『この話(木製の凧)に関連して西洋でも2世紀にアウルス・ゲリウス(Aulus Gellius)による書物に、凧揚げのことがかかっていることである。そのなかにはアルキュタス(Archytas)の「飛ぶ鳩(flying dove)」や、おなじような基礎的なタイプの航空機のことを述べられている。』

アルキュタスに関しては日本語でも英語でも、インターネットのウィキペディアで知ることができ(参考資料11)、アルキュタスが製作し、飛ばした鳥の形をしたものは、おそらく、蒸気ジェットで推進する最初の人造自走式飛行体だったように書かれており、凧であった可能性には全く触れていませんのでやはり、中国が凧の起源であり、魯班が木製の鳥凧を発明したという伝説を信じるのが妥当ではないでしょうか。

1987年4月に、濰坊市は世界の凧揚げの里に選ばれ、国際凧揚げ連合会はまた、国際凧揚げ連合会の本部を濰坊市に置くことを決定しています。濰坊国際凧揚げ大会の開催は、濰坊市の知名度を大幅に向上していますが魯班の像もその街にあります(写真1)。魯班の功績が認知されている証拠であろうと思っています。



以上

写真1 魯班の像

●参考資料

1. 中国の凧の歴史
<http://chugokugo-script.net/chugoku-bunka/tako.html>
2. The History Of Kites
<https://www.my-best-kite.com/history-of-kites.html>
3. 世界の凧 広井 力訳 美術出版社発行 :1978年
原著 : The Penguin Book of KITES published by Penguin Books
著者 : David Pelham
4. 凧の本
深山五郎 駸々堂ユニコンカラー双書008 駸々堂出版 1978
5. History of Kites | American Kitefliers Association (AKA)
<http://kite.org/education/history-of-kites/>
6. 中国の凧 哈魁明 哈亦琦著 (株)グラフィック社発行 1985年
7. Kites :An Historical Survey
著者 : Clive Hart 出版社 : Paul P. Appel 1982年
8. 魯班とはーコトバンク
<http://kotobank.jp/word/魯班>
9. Lu Ban Wikipedia
https://en.wikipedia.org/wiki/Lu_Ban
10. Mozi Wikipedia
<https://en.wikipedia.org/wiki/Mozi>
11. アルキタス Wikipedia
<https://ja.wikipedia.org/wiki/アルキタス>